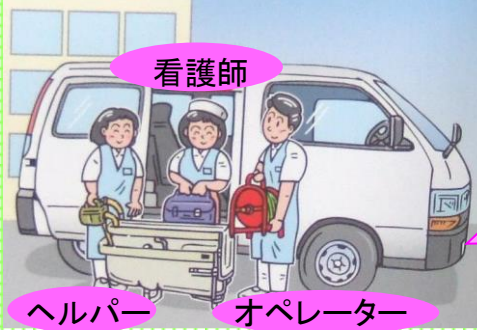


訪問入浴介護とは??

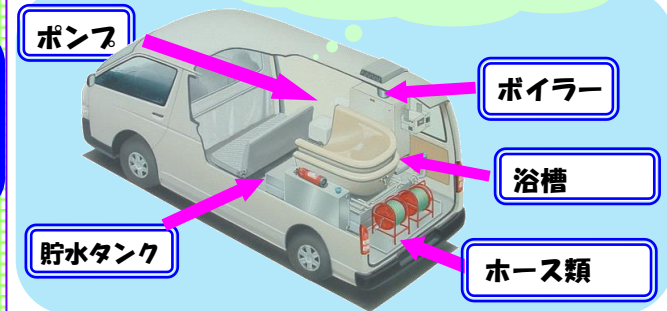
「移動入浴車」

看護師、ヘルパー、オペレーターの3名1チームでご自宅に訪問します



看護師:入浴する方の体調チェックや衣服の着脱、入浴介助を行います。
ヘルパー:入浴器材の準備片付け、入浴介助を行います。
オペレーター:入浴器材の準備片付け、各行程の流れの確認、チェックを行います。移動入浴車のメンテナンスも行います。

介護・介助の必要な高齢者や障がい者の方々がご自宅のお部屋でそのまま入浴できるサービスです。専用の浴槽を装備した移動入浴車とスタッフ3名1チーム(看護職員1名、介護職員2名(ヘルパー、オペレーター)で訪問し、約畳2畳のスペースがあればベッドや布団のそばで入浴が可能です。



入浴に必要な備品全てを搭載!

訪問入浴介護のながれ

①

看護師が血圧、体温、脈拍などを測定し、当日の入浴の可否判断を行います。



②

ベッドのそばに浴槽を設置し、浴槽にホース類、ネットを装着して、入浴の準備、お湯張りまで行います。



③

タオルなどを使用して、羞恥心に配慮しながら脱衣を行い、さあ浴槽へ！移乗は3人に対応しますので 安心・安全！



④

洗髪し、身体の末端からきれいにしていきます。陰部・臀部もさっぱり丁寧に！



⑤

最後、ゆっくりとお湯につかって上がります。洗髪から約15分が時間の目安です。



⑥

着衣交換も行い、浴後の健康状態チェック。水分の補給も忘れずにいたします。



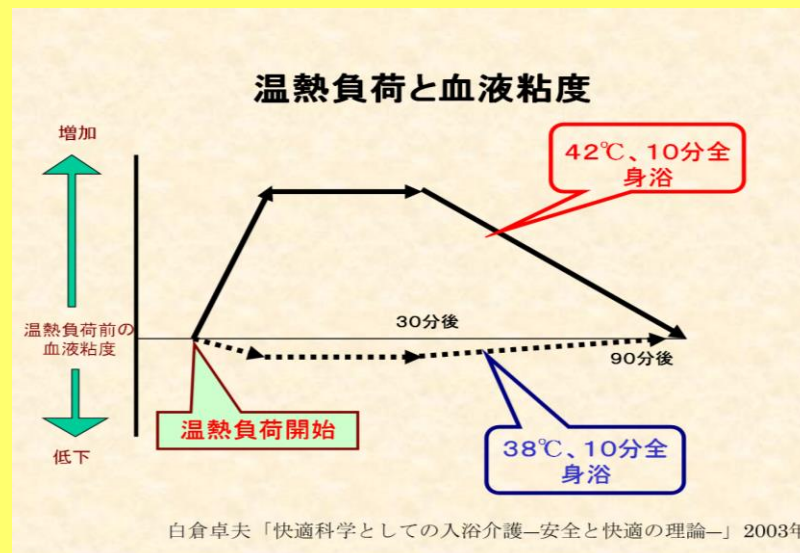


あつ湯の危険性をいかに回避するか!?訪問入浴介護の専門性の見せ所です!!

高温浴を行うと、血液粘度が上昇します。血液粘度とは血液のドロドロ加減で、血液粘度が高いと心筋梗塞や脳梗塞の原因になります。右の図は温度別の血液粘度の変化を表しています。ご覧頂くと、42℃と38℃では血液粘度の上昇に大きな差があることが分かります。

理由は至って簡単。42℃のほうがお湯が熱いため、汗をかきます。汗をかくということは体内の水分が体外へ出ていくということなので、結果血液中の水分も減少し、血液粘度が上昇するのです。

38℃では血液粘度に変化は見られません。38℃のお湯では人間は汗をかかないからです。人間の身体は、深部体温が38℃を越えると汗をかきます。発汗は身体を冷やす行為です。深部体温が38℃以上にならないように人間の身体は発汗により体温調節しています。



それでも、**高齢者は高温浴を望む**傾向が強くあります。ご利用者様のニーズに応え、尚且つ安全に入浴を行うために、入浴の後だけでなく入浴前にも水分補給を行っていただくことによって訪問入浴サービスではご利用者様の**血液粘度を高めることなく安全に入浴**を楽しんでいただいております。

訪問入浴介護ではお湯の温度を基本的に38℃前後のぬる湯でサービス提供を行っておりますが、暑いお湯が好きな高齢者が入浴する際にはちょっとしたコツがあります。それは、初めから熱いお湯を張らずに、ぬるめのお湯に浸かってから温度を上げていくという方法です。いきなり熱いお湯に入浴するよりも皮膚への刺激が少なくなるので**血圧の上昇**も抑えられます。このようにご利用者様にご満足いただけるように、きめ細やかな配慮が安全に基づいたうえで可能なもの訪問入浴介護の大きな特徴です。

訪問入浴介護へのお問い合わせはこちらまで